

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674100439		
法人名	医療法人社団洛和会		
事業所名	洛和グループホーム勸修Ⅱ番館 (1F)		
所在地	京都市山科区勸修寺西金ヶ崎238番地		
自己評価作成日	平成26年11月17日	評価結果市町村受理日	平成27年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2674100439-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館は3ユニット利用者27名、職員も27名の大型のグループホームである。そのため職員の力量に応じてOJTやユニット内での異動をすることで職員同士がお互いにスキルアップを目指すことができる。そのためにも普段から他ユニットの職員や利用者との交流は不可欠であり、月に1度のⅡ番館交流会を開催している。
またⅡ番館新聞を各ユニットで月に1度発行し地域に回覧、行政へのお届けや家族に配布、また他のグループホームへも配布し交流を深められるようにしている。フロア内は手作りの壁飾りやカレンダーで季節感を出せるように心がけている。また毎日の食事やおやつは利用者と共にテーブルの上で作ることから盛り付け、までをすべて利用者の目の前で行うことを統一したケアとしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念に「笑顔とぬくもりのある穏やかな生活を支援します」と掲げ、笑顔の生活が送れるよう利用者がホームでどのような暮らしをしたいのかを把握できるように努めています。利用者の思いに関わる場面を振り返り記録に残し毎月の勉強会で検討し、利用者の立場に立って、やりたいことや願いなどを心身の情報シートに記入し、職員間で共有し日々の支援に繋げています。利用者が拘束感を感じないよう玄関の開放やユニット入り口の開錠を行い、調理も台所に入るのではなくリビングで利用者と一緒に行うことで、見守りをしながら家庭的な雰囲気の中で利用者が役割を發揮できる場面を作ることができています。また、地域との関係も良好でホームの秋祭りは回覧板で地域に告知し多くの参加を得たり、大学生のボランティアの来訪、近隣の保育園との交流が図られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念については、毎日唱和することで共有化を計っている。事業所としても管理者を中心に月に1度の理念を作り理念をもとにした実践に取り組んでいる	ホームの理念は職員の意見を出し合って「笑顔とぬくもりのある穏やかな生活を支援します」と作成されています。各フロア毎に職員が出勤時に目に付く場所を考えて掲示し唱和し気持ちを込め理念にそった支援を行うよう努め実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域の町内会に加入しており、利用者が参加可能な取り組みについては参加していきたいと考えている。近隣の保育園との交流やボランティアさんの来訪などの機会がある	ホームの秋祭りは回覧板で地域に案内し多くの参加を得たり、手品や大学生のボランティアの来訪があり交流が図られています。また近隣の保育園との交流会や運動会に出かけたり、来訪があり竹馬などの昔遊びを楽しんでもらっています。日々、散歩で出会った方と挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	AEDの設置事業所であることを、組長会議等にて発信している。また地域に向けての認知症サポーター講座を毎年実施している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での取り組みの伝達など地域の情報をいただく機会となっている、事業所内で起こった事故報告等を行い助言を得る機会となっている。またボランティア活動のアドバイスもいただいている	運営推進会議は2つの地域の方の参加を得たり、利用者にも出席してもらうこともあり、参加者を工夫しながら開催しています。各ユニットごとの近況やホームの行事や事故、職員の異動等の報告を行い、アドバイスをもらったり意見交換を行っています。参加者からボランティアの情報をもらい、大学生のボランティアの来訪に繋がるなど、有意義な会議になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録をGH新聞と一緒に手渡している、GHの入退居についても報告している。	区の介護保険課に定期的に出向き、運営推進会議の議事録とグループホーム便りを持参し読んでもらいホームの実情を伝えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除いて玄関の施錠は行っていない、身体拘束をしないケアの重要性については研修やカンファレンスを通じて深める機会がある	身体拘束については研修や毎月のカンファレンスで全職員が理解できるように取り組み、拘束に繋がるような言葉掛けにも注意を払っています。日中は玄関を開放すると共に、各ユニットの入り口も開錠するにあたっては、職員間で話し合いを重ね環境を整え実現に至っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止の研修に参加することで意識付けを行っている。また参加した職員から伝達研修を行っている。		

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には法人内外の研修への参加を促している、利用者さんの中には実際に制度を利用されている方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、家族と共に読みあわせを行い分かりやすく時間をかけて説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから意見を言い易い関係作りを目指して、利用者の情報が常に共有されるようにしている。また直接伺うばかりではなく、アンケートを実施したり、意見箱を玄関に設置している	家族の面会時には傾聴の姿勢で話しやすい雰囲気を作り、コミュニケーションをとっています。面会に来られない方には手紙等で利用者の様子を伝えていきます。また、意見箱を設置し感謝の言葉をもらい職員は更にサービス向上に繋げ、年に1回行うアンケートからも意見をもらい職員間で話し合い運営に反映できるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスで職員一人一人の意見を出し合う場としている。日々の中で職員とのコミュニケーションの機会を作り気軽に意見を言えるように配慮している	日常的に職員間のコミュニケーションが図られ、ユニット毎に月に1度カンファレンスを行ったり、食事会を行い考えや意見を言える機会を作っています。物品や行事、情報等の担当を決め、担当からの意見や提案を発信し運営に反映しています。また年に2回定期面談を行うと共に、随時職員の様子を見て面談を行い意見等を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートを実施し職員個々の給与水準や労働時間に対する思い、やりがいの把握に努めている。また年に2回		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としてキャリアパス制度を確立し各職員力量に応じた研修が用意されておりモチベーションにも繋がっている。法人外研修への参加についても機会がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での勉強会にも参加し交流の機会となっている。また地域での認知症サポーター講座を地域包括支援センター主導のもと他事業所と協力にて開催するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談にて本人の要望を確認し、それに合わせた形でケアプラン作成し、不安の軽減に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談だけでなくセンター方式記入していただく事とともに密な連絡を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式使用し、本人の身体的精神的状態を把握して往診や訪看、口腔ケア、マッサージ師などと連携をとっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に炊事をする事はもちろん、裁縫や必要物品の製作を共におこなうなど共同して生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人家族との外出を積極的に支援し、衣替えなど家族に行っていただける事をお願いしている。また面会に来られたら一緒に写真を撮るなども行い居室に飾っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出で本人の馴染みのところにドライブに行ったり、本人からの要望があれば電話等取り次いだりして関係継続に支援している。	友人や知人の来訪や一緒に喫茶店に行く方がいたり、携帯電話を持っている利用者は自由に電話のやり取りを行っています。又、年賀状を書いたりポストへの投函等の支援をし馴染みの関係が継続できるよう配慮しています。馴染みの場所や住んでいた近くへの買い物などの外出支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の要望も含め、カンファレンス等を利用し席順やそれぞれの関係性など支援できるように職員が支援している。また来られたときは居室でゆっくりできるような配慮をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何か変化があればケアマネージャーより情報を提供してもらい、情報も職員間で共有して、退去後も本人・家族が気軽に相談してもらえるような関係を築くように心がける。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、「振り返りシート」で事例を出すことによって職員間で希望や意向の把握に努める。	入居前の面接時には利用者の意向や思い、ホームでどのような暮らしをしたいのかを聞いています。入居後はそれぞれの職員が利用者の思いに関わる場面を振り返り記録に残し、毎月の勉強会で検討し意向の把握に繋がっています。また利用者の立場に立って、やりたいことや願いなどを心身の情報シートに記入し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を閲覧することにより情報収集し、これまでの生活歴や暮らし方、生活環境などの把握を努め、情報の共有を図る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、日々記録を残すことにより、職員間で現在の状態の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から気づいたことを職員間だけでなく、家族や他職種と共に共有し、意見交換した上で介護計画を作成している。	本人・家族の意向や主治医・訪問看護師の意見を聞き、アセスメントを行い、カンファレンスで話し合い介護計画を作成しています。利用者の状況に合わせて期間を6か月～1年に設定し、日々介護計画に添った記録に加え気づきを記録に残すようにし、変化があった時には随時介護計画の見直しに繋がるように取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に基づいたケアの実践・結果・気づきなどを個別に記録に残し、職員間で共有する事によって介護計画の見直しやそれぞれの実践に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの希望に柔軟に対応するように心がけていて、訪問マッサージの導入や出張散髪をとりいれたり、外出の機会として近隣のパーマ屋を利用する場合もある。		

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各利用者さまの希望に添った個別外出やご家族様との外出にも柔軟に対応し支援している。日常的には町内に散歩に出掛けたり、近隣の喫茶店に行ったり、近くの保育園との交流も積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の隔週訪問であるが、電話での対応は24時間対応、必要なときは緊急に往診していただいている。また本人やご家族の希望する病院に受診をする場合でも紹介状を書いていただいたり適切に対応していただいている。	入居時にかかりつけ医を継続できることも説明し選んでもらっていますが、現在全員が協力医の往診を受けています。協力医は月に2回の往診の他、発熱時など随時の往診や24時間連絡が可能な体制が整えられています。週に1回訪問看護や口腔ケアを受け、専門医への受診はホームで支援したり、家族が同行することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問で利用者さまの細かい変化にも対応していただいている。また24時間対応で電話相談にも対応していただき、その都度指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院となったときは介護サマリーにおいて情報の共有に努めている。また退院時は相談員と連絡を取り、他職種含めたカンファレンスを開催し情報収集し、その情報を職員間で共有できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化の指針について説明を行い、利用者さまの状態が重度化・終末期に近づいてこられた時には改めて説明し、時には医師・看護師を交えて話し合いの場を提供し理解をいただいている。	入居時にホームの重度化の対応指針に基づいて、利用者・本人の希望があり医療行為が必要とならない状況であれば、看取りの支援を行うことを説明しています。重度化する中で家族や医師、訪問看護師、職員と話し合いを重ねながら、入院や転居も視野に入れ利用者にとって最良の支援を行っています。職員への看取り支援の研修や精神的ケアも行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者さまの急変や事故発生時にはマニュアルがあり、全職員が普通救急救命講習を受講して発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	約2ヶ月に一度のペースで避難訓練を実施して災害時に備えている。また地域の広域避難場所を把握している。また年2回消防署の立会いで訓練を実施している	年に2回消防署の立ち会いの下、主に夜間を想定し初期消火や通報、避難誘導を行い、連絡体制を確認しています。また2か月毎に連絡網を回したりコンセントの埃の確認などの自主訓練を行っています。訓練は回覧板で地域に案内したり、運営推進会議でホームを一時避難所にするなどを提案するなど、協力体制が築けるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳に配慮した言葉かけや関わりができるように十分注意している。事業所の研修やGH内のカンファレンス時にも職員お互いに注意したり、常に気をつけている。	入職時に接遇・マナーについての研修を受け、日々利用者を尊重し丁寧な対応を心がけています。管理者は不適切な対応があればその都度注意をしたり、理念にある顧客第一とは何かについて話し、できる限り具体的にわかりやすく伝えるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さま本位の個別ケアに努めている。センター方式を活用したり、日々の関わりの中で得たヒントなどを記録に残して職員で共有したりしている。また日々の中で飲みたい物、食べたいものを選んでいただく機会がある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さまのペースを一番に考え、日々の関わりの中で利用者さまの希望を聞き取りながらご本人本位の個別ケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える服や入浴時など一緒に居室で希望の服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新聞広告やテレビなどをみて食べたいものを考えていただき、メニューを決めたりしている。利用者さまの力を考えながら食事の準備や後片付けなども職員と一緒にやっている。	毎日ホームにある食材を見て利用者と献立を考え、食卓で一緒に調理をし談笑しながら食事を摂っています。月に1度は外食の機会を持ち、ケーキバイキングや回転寿司等にユニットごとに出かけています。ホーム内でもパンバイキングやバーベキュー等、いつもと違う食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや好き嫌いなどを考慮し、一人ひとりに応じた食事を提供している。嚥下の悪い利用者さまには水分はトロミをつけて、食事はブレンダー一食で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に口腔ケアを行っており、自らできない利用者様に関しては職員がお手伝いしている。また週1回歯科衛生士による口腔ケアも希望者には行っている。		

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行っている。自分のできる事は支援をおこない尊重している。	日々の排泄の記録から個々のリズムや生活パターンを把握し、その人に合ったタイミングでトイレで排泄できるよう支援しています。ポータブルトイレを持参した方も夜間トイレまで行ったり、紙パンツや布の下着への変更等は職員間で支援方法を検討し本人・家族に相談しながら決めていきます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面や水分補給の配慮、適宜な運動を取り入れ、自然な排泄につながるよう取り組んでいる。なかなか排泄につながらない時は往診医と相談し内服でのコントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日を決めずに希望に応じて入浴機会を提供している。利用者さまそれぞれに合わせて入浴を楽しめるように配慮している。	入浴は週に2回以上を目処に13時半～17時くらいの間に希望の時間や順番を聞き支援しています。入浴しない日は足湯をしたり、ゆず湯などの季節湯も楽しんでもらっています。夜間の希望があれば対応可能であり、拒否される場合は時間帯や誘導の工夫をしたり家族の協力を得て入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を気をつけたり、適宜な運動を取り入れたりしながら安眠できるような環境を提供している。また日中の休息についてはその時の体調に配慮して必要に応じて取り入れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回出る処方箋に職員が目を通し、その薬の目的や副作用などを理解している。また主治医と相談し、症状の変化があった場合は速やかに報告している。服薬管理についてはマニュアル通りに確実に実行されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを行い一人ひとりが役割を持って喜びや楽しみのある生活ができるように介護計画に提案しその利用者様らしい生活ができるように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さまの希望に応じて個別に外出支援を行っている。ご家族様との外出についても協力し、機会が設けられるように支援している。また全員でいく外出プログラムもあり、戸外に出掛ける機会をできるだけ提供している。	日々散歩に出かけたり玄関先のベンチで外気浴をするなど、外に出る機会を多く作っています。月に1度の外出ではドライブして喫茶店に行ったり、食事会等へ出かけています。個別支援では定期的に教会に出かけることができるよう介護計画を立て支援しています。	

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族様から預かっており、必要な場合についてはそこから利用者様に自由にお買い物をしていただき、支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話がかかってきたりすると利用者様に取り次ぐこともあり、ご本人の希望でかけたりすることもある。また手紙のやり取りについてはGHの近くに郵便ポストがあるので自ら投函してもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとや季節に応じてリビング等の飾り付けを行っている。また週1回生花を買ってきて利用者様に活けてもらい見えるところに飾ることで心地よい空間になるように工夫している。	玄関をはじめ各フロアには多くの生花を常に飾り、また利用者と一緒に作成した壁絵やカレンダーを掛け、季節を感じられるようにしています。家庭的な装飾や家具を設置し、ソファや椅子を壁際に置くなど、利用者が落ち着いて過ごすことができるよう支援しています。温湿度管理や掃除を徹底し、月に2回ワックスをかけ、清潔を保持し居心地よい空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下の一角にイスなどを置くことによりどこにでも座って職員と話したりできるように配慮している。和室のたたみのところにも気軽にこしかけられるようスペースをあけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や食器類は入居時に持参していただくようお願いをして、利用者さまが自らの家と思って過ごしてもらえるように配慮している。また家族との写真やご本人作成の手芸作品なども飾っている。	使い慣れた馴染みのものや家族が利用者のために用意した家具を設置し、利用者が安心して過ごせる居室作りに配慮しています。箆笥やテーブル、椅子、テレビなどを置いたり、ぬいぐるみや家族等の写真、生花を飾るなどその人らしく過ごせる居室となるようにしています。また利用者と一緒に掃除を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握しご本人の思いに添えるよう工夫しながらも、安全に生活が送れるよう家具やベッドの配置を考えたりしている。		